

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0110317328		
法人名	医療法人社団 鈴木内科医院		
事業所名	グループホームきよた		
所在地	札幌市清田区清田4条2丁目10-25		
自己評価作成日	平成27年8月20日	評価結果市町村受理日	平成27年10月15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人の理念「Love and Care」を大切に清田区の地域医療、介護の担い手として清田区に住む方々の人生を支え最後まで愛のある良い医療と良い介護の実現を全職員で目指しているところです。

当法人は、鈴木内科医院を母体に、デイケアセンターやグループホームきよた2、訪問リハビリ、居宅介護支援事業所、H25.12には医療介護支援住宅美しが丘がオープン致しました。24時間の医療連携体制があり安心してケアを提供することができます。他部署との交流も多く持っており、行事なども充実しております。今年6月からは、認知症サービスの運営も行って、認知症の方の持っている力を最大限に発揮できるよう支援している所です。

認知症の人のケアの仕方について「ユマニチュード」という優しさを伝えるケア技法を習得中です。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kajigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani%20ue&JigvosyoCd=0110317328-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット
所在地	札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401号室
訪問調査日	平成27年9月7日

グループホームきよたは、平成14年に清田区に住む方々の人生を支え、最後まで愛のある良い医療と良い介護を提供したいという運営者の思いで開設された。医師が運営者のため、定期的な回診と、隣接するグループホームや医院の看護師の支援を受けた、きめ細やかな健康管理は家族だけではなく、適切なケアを行っているという職員の安心にもつながっている。入居後も利用者と家族の絆を大切に、利用者や家族同士の交流を定期的に行っており、日常的な交流と共に家族との信頼関係作りにも努めている。法人では、職員のモチベーションを向上させる取り組みとして、全職員が経営に参加する「アメーバ経営」という経営手法を取り入れたり、外部研修への積極的な参加、資格取得希望者への援助を行っており、安心して働ける環境の整備にも配慮している。今後も地域密着型サービスの拠点として、さらなる活躍が望まれる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果		項目	取り組みの成果	
	↓該当するものに○印	↓該当するものに○印		↓該当するものに○印	↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム内にグループホームの理念と法人全体の理念を掲げ、理念に基づく支援の指導を新人研修時または、部門会議にて定期的に行っている。	母体である医療法人の理念を基に、ホーム独自の理念を作成し、研修や会議の他、日常的に共有している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に所属しており、毎月定例会や子育てサロンに参加している。年に一度の作品展覧会に作品を出展したり、運動会や冬には道路にキャンドルを灯して下さり交流を深めている。	母体法人を中心に、地域住民との相互の協力関係がしっかりと築かれている。町内会行事・定例会や子育てサロンへの参加等、積極的に地域交流に努め、事業所について周知している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	清田区グループホーム管理者会主催の認知症徘徊模擬訓練及び認知症サポーター講座の開催を年1回行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて、ご家族様や町内会の方、地域包括支援センター職員、社会福祉協議会事務局長様の参加により出た意見は、ホーム会議にて全職員と話し合い改善に努めている。	町内会役員や家族、地域包括支援センター等が参加し、定期的に開催している。会議で提案された内容は家族・職員にも伝え、改善につなげている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市の担当者には、毎月入居者情報を提出している。また、札幌市グループホーム連絡会議にも管理者が参加し研修を受けている。地域包括支援センター職員には、運営推進会議に参加していただいている。	運営推進会議には地域包括支援センターの出席がある。市への毎月の状況報告、地区の管理者会議を通じて、地域高齢者や事業所の状況について情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は夜間のみとしている。身体拘束をしないケアを行うため、マニュアル作成をしている。	職員は法人内・外の研修へ参加することで、定期的に振り返りの機会を持っている。身体拘束と、ケアを高めるための視点も取り入れた虐待防止のマニュアルがあり、定期的に全職員が確認を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待の研修会に参加申し込みしたが参加人数が超えており昨年度は参加できなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護について学ぶ機会をもつことができていないので、研修会などに参加し理解を深めていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、ご家族様に理解と納得が得られるのを確認し、締結するよう努めている。また、改定等は、運営推進会議を利用し説明したり、お便りの発送を行い同意を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	毎月写真入りのお便りにて生活の様子を伝えている。キーパーソン以外でも希望があれば発送している。また、ご家族様面会時には、生活の記録をみていただきながら、ご家族様とのコミュニケーションの機会を設けている。	生活状況を毎月のお便りや電話で報告する等、利用者・家族と職員のコミュニケーションは良好である。利用者本位を運営の柱の一つとしており、日常的に意見・要望をくみ上げる仕組みがある。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	グループホーム会議や法人の全体会議で意見交換をする機会を設けている。また、運営者と個人面談も実施している。	ユニット会議や全体会議の際に職員からの意見を聴取している。管理者が定期的に個人面談も行っており、職員個別の相談や目標について話し合っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者は面談や管理者の意見、資格の有無などを全体的に評価し、人事、給与を決めている。各部署が独立して運営できるように経営の勉強をチームで行っている所で、やりがいや向上心を持って働ける環境にある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を育てる為に、実践者研修やリーダー研修など積極的に学ぶ機会を設けている。また、法人内でも外部からの講師をお招きし、研修を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	清田区グループホーム管理者会主催のグループホーム交流会行事や研修会で同業者と交流する機会を作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを十分にを行い、入居者様が安心して意見が言いやすい環境作りを心掛けている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の思いを大切に、意見を伝えやすいような環境作りと信頼関係が作れるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様とご家族様に面接を行いながら、関係機関からの情報をもとに初期支援の対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様の介護のレベルに合わせながら、生活の場を共に過ごし関係を築いている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様と本人と一緒に過ごす時間を大切にする為、面会時は居室でゆっくりしていただいたり、行事の参加や自宅に外出、外泊する時間が持てるよう支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	併設されているデイケアセンターやグループホームにいるご家族様や友人に会う機会を大切にしている。	併設の事業所に友人の通所予定がある場合、施設間で連絡をとり再会の機会を設ける等、工夫している。利用者の力量や体調にも配慮し、支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	家事やレクリエーション活動の提供により入居者様同士が関わりを持ち、孤立しないよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて相談や支援を行っている。サービス契約終了後も気軽に立ち寄っていただけるよう声を掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン更新時には、必ず本人の意向を聞いている。困難時は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中や、家族からの情報を基に、利用者の生活習慣や馴染みの場所等を把握し、一人ひとりの想いに添える様、支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し、把握に努めている。本人、家族からも折にふれ聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の様子は、記録や申し送りで把握している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	意向は、ご家族様からも聞いている。サービス担当者会議を開催し、本人、ご家族様を含め話し合っている。	計画のモニタリング、目標の達成状況などについてカンファレンス等の場で検討している。都度、見直しを行い、健康や身体状況に合わせて計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に記録している。職員には記録の重要性を折にふれ話している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	地域の活動に参加し、ニーズは可能な限り対応する方向で考えている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	清田十五日会(老人会)、子育てサロン、展示会などに参加している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは十分に連携を取り、24時間体制で支援している。	隣接する母体医院の医師・看護師が、24時間体制で医療支援を行っている。専門外来の受診は原則家族対応であるが、診療情報提供書を発行している。また、受診内容については個別に記録し、職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内の看護師が、週1回医療連携に来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先の医療機関や併設病院の医師、ご家族様と話し合い、グループホームでの対応が可能であれば、早期退院支援を行い、病院関係者との情報交換に努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	併設病院の医師や看護師と連携をとり、職員の役割を明確にして取り組んでいる。ご家族様には入居の際に指針をお渡しして説明、理解していただき、医療と連携しながら、都度意向を確認し支援している。	重度化した場合の対応に係る指針、意思確認を文書化し、早期から家族や併設病院と連携し、話し合いを行っている。本人や家族の希望を尊重し、最善を尽くせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的にホーム会議で勉強会を行い、迅速に対応できるよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立ち会いのもと、地域ボランティアの協力を得て一緒に消防訓練を行っている。協力体制は築いている。	避難訓練は昼夜想定で年2回、併設の施設と合同で行っている。毎回具体的な設定を行い、課題となることを洗い出し、改善に繋げている。	災害時に協力してもらいたい内容を伝え、役割が決まっている等、地域との協力体制を構築している。火災以外の災害を想定した訓練等、今後も継続した尽力に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	その人に合った場面と声掛けで対応している。	利用者個々の意見・尊厳を尊重し、敬意ある対応を心がけ、職員会議や研修等の場で共有し、実践に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様のやりたい事、希望に沿った対応をしている。自己決定の難しい方には、選択肢を与え、希望を持てる支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様の希望を優先し、個別の対応を多く取り入れている。楽しみを持って生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節、気候に合わせて洋服を選んで合わせている。外出時にはお化粧品、服装などにも気を配り支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様と食事の盛り付けや後片付けなど職員と寄り添いながら行っている。お菓子作りを行い、入居者様同士で食事を楽しむ機会を設けている。	準備から後片付けまで、個々の利用者に出る範囲で手伝ってもらい、日々の楽しみとしている。また調理方法、嗜好等の要望も取り入れ、献立作りをしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様個々に適した食事の形状や量、水分量を記録し職員間で把握し支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様個々に合った声掛け、介助を行っている。必要と認めた入居者様に関しては、訪問歯科を利用し、定期的に指導してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンをもとに、声掛けや見守り、介助を行っている。	利用者のサインを見極め、タイミングよくトイレへの誘導を行っている。利用者の重度化も考慮し、無理のない排せつ介助を目指し、パッドやリハビリパンツ等、快適性を検討しながら支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操を行ったり、ヨーグルトや牛乳の提供、個々に下剤等の服薬を検討し支援している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	1週間に2回、入居者様の体調や希望に合わせてながら声掛け、入浴をしている。	週2回以上を目標に、体調や状況に応じた弾力的な支援を行っている。利用者の希望を取り入れ、快適で楽しい入浴となるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	快適に休息、安眠ができるよう、居室の配置、温度など環境面にも気を配って支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	訪問診療後、薬に変更があれば記録に記載し、申送り表で周知できるよう連絡する他、体調の変化の確認に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好みを把握し、1人1人に合った役割や楽しみを見つけ生きがいのある生活を送っていただけるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事を設けたり、入居者様の希望を取り入れながら、外出の予定を立てている。ご家族様にも参加していただけるよう声かけをしている。	事業所の畑での収穫や、花壇の水やりなど、散歩と合わせて日常的に行っている。ショッピングセンターで外食を楽しむなど、体調に合わせて、出来るだけ外出できるよう配慮している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭は、グループホームの金庫で管理している。必要時には用意し、入居者様に買い物を楽しんでいただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に応じて電話を使用したり、手紙が届いた際には、返信できるよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日気持ち良く過ごしていただけるよう、温度や湿度を管理したり、掃除や換気を入居者様と一緒にしている。	共用空間であるリビングは明るい日差しが差し込み、ソファや食卓テーブルがあり、思い思いの場所で寛ぐことができる。利用者と共同での清掃により、清潔に保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のソファや食卓テーブルの席でそれぞれ好きな場所で好きなように過ごせるよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が長年使いなれた物やレクリエーションで作った作品、壁飾りなどを置き、快適に過ごせるよう配慮している。	居室は、使い慣れた馴染みのものを自由に持ち込むことで、環境変化によるストレスが軽減出来るよう配慮されている。温・湿度の管理がなされ、居心地よい空間作りの為の工夫に努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	随所に手すりや転倒防止の導線、トイレや居室が分かる様に目印や名前をつけて、自立した生活が送れるように工夫している。		